

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 徳島文理大学保健福祉学部
口腔保健学科開設準備室
室長・教授 中野 雅徳 先生
2. 演 題 咬合学と歯科臨床 ―私が取り組んできた咬合研究とこれからの皆さんに解決してほしい課題―
3. 日 時 平成28年10月27日(木)17:00～18:00
4. 場 所 歯科棟南4階 歯学部特別講堂
5. 抄 録

私は 1960 年に本学歯学部を卒業し第二補綴に入局、2 年間の医員を経て大学院に進学しました。長谷川成男前教授の直接の指導を受け、研究テーマは「側方滑走運動における顆路と歯牙路の関係」でした。それまでクラウンブリッジ補綴装置に新たに与える歯のガイドの傾斜を決定する明確な基準がなかったのですが、滑走運動時に下顎が逆回転しないようにガイドの傾斜を与えるという一つの基準を導きました。大学院修了後 4 年間、長野県にあるリハビリテーションセンター鹿教湯病院に勤務した後、徳島大学の坂東教室に移り、顎関節症の臨床と咬合研究にも従事してきました。坂東教室の顎運動研究の主な成果は「咬合学と歯科臨床」(医歯薬出版2011)に集約されています。今回の講義では主に私が関わった「咬合の 5 要素」、歯のガイドの向く方向による分類「M 型、D 型」に関する研究などについて紹介するとともに、これからの咬合研究を担う皆さんに解決してほしい課題をいくつか提示したいと思います。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)